

プログラム名

東京慈恵会医科大学附属病院内科専攻医研修プログラム

募集定員

50名

研修期間

3年

プログラムの特徴

1. 本プログラムは、東京都の東京慈恵会医科大学附属病院(本院)を基幹施設とし、これに第三病院、柏病院(千葉県)、葛飾医療センターの3つの分院を連携施設とした4病院を研修の中心に置き、これに学外の関連病院を連携施設に加えた病院群で構成されています。本院は特定機能病院として先進医療を推進していますが、他の分院はそれぞれの地域における中核病院であり、地域医療を担うとともに、地域の特性を反映した異なった機能を有しています。これらの病院における研修を通して、先進医療から地域医療までは幅広い研修を可能し、個々の専攻医のニーズに合わせた多くの選択肢を用意しています。また、学外の関連病院では、総合診療から subspecialty 研修に至るまで、大学病院で修得した技能をもとに多くの症例を経験し、臨床能力を一層発展・充実させるとともに、内科医としての確かな見識を身につけます。2-3年次に連動(並行)して行う subspecialty 研修では、どの内科系診療科においても、我が国で有数の臨床実績を誇る本院のほか、国立がん研究センター中央病院をはじめとする本邦屈指の高度専門病院を連携施設としており、これらの病院で最先端の医療を経験します。このような充実した研修環境と指導体制のもと、豊富な臨床経験を積み、日々進歩する我が国の医療の中で、次代の内科診療を担う有能な内科専門医の育成を目指しています。
2. 本研修プログラムでは、患者の一時期の診療のみではなく、主治医として個々の患者を入院から退院・外来通院までの診療に従事し、診断・治療の流れを理解し、患者のライフステージと社会的背景の中で、適正な管理目標を立て、療養環境を調整する経験をします。このような診療経験を通して、全人的医療の実践を学び、社会医学的視野を身につけます。

3. 基幹施設である本院と分院を中心とする連携施設における2年間の研修(専攻医2年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。
4. 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
5. 専攻医3年修了時で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できる体制とします。そして可能な限り、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします。

図1. 本学における内科専攻医研修プログラム概要図

内科研修の概要												
専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科1		内科2		内科3		内科4		内科5		内科6	
	5月から1回/月のプライマリケア当直研修を6ヶ月間行う (プログラムの要件)											
本院ならびに分院でローテートする。1年目にJMECCを受講												
2年目	1年目非選択診療科・総合内科・地域医療・救急 (subspecialty研修を連動して行う)										予備(充足していない領域をローテーション)	
	本院、分院、学外連携病院でローテートする									内科専門医取得のための病歴提出準備		
3年目	本院、学外subspecialty連携施設(subspecialtyに重点化した研修)											
	初診+再診外来 週に1回担当											
そのほかプログラムの要件			安全管理セミナー感染セミナーの年2回の受講、CPCの受講									
他科のローテーションについて	1年次は、本院(基幹施設)および分院において、2ヶ月ずつ①消化器肝臓内科、②腫瘍血液内科、③糖尿病代謝内分泌内科、④神経内科、⑤腎臓高血圧内科、⑥リウマチ膠原病内科、⑦呼吸器内科、⑧循環器内科、⑨総合診療部、⑩感染制御部ならびに救急部のうち、6診療科を選択して、ローテーションする。2年次は本院、分院あるいは学外連携病院で、1年目に選択しなかった診療科、総合内科、救急ならびに地域医療を研修し、subspecialty研修を並行して行う。3年次は本院で、希望するsubspecialtyを重点化した研修を行う。診療科によっては、学外の高度専門医療施設で研修を行う。											
その他	研修中に大学院への進学を希望する場合はsubspecialty研修開始後、レサーチレジデントに登録する。											

図 2.初期研修から subspecialty 研修までの概念図

